

2013年3月29日

第9回福岡市行財政改革推進会議

委員 沼尾波子

※最終回の会議に出席することができず、申し訳ありません。いただいた資料について、またこの間の検討内容について、いくつか意見を述べさせていただきます。

1. 職員意識調査の成果

職員アンケートの実施、アンケート結果を踏まえて行政内部の改革についての検討など、職員の方々の意見を集め、それを整理し、そこから改革についてオープンに話し合う試みが進められたことの意義は大きかったと思います。ぜひ今後も続けていただきたいと思います。

2. 財政運営に対する懸念

他方で、財政という視点からこの1年を振り返り、また今回の資料を拝見する限り、「政策的経費」を広く確保し、成長を前提とした財政運営を継続していくように見えてなりません。全国の動向をみる限り、財政運営については、政策的経費の確保は必要であるものの、その「持続可能性」を踏まえた運営が模索されています。しかしながら、今回のとりまとめでは、政策的経費の確保が強調され、少子高齢化による民生費の増加や、国の財政対策を通じた地方交付税の縮小など、厳しい外生的要因を踏まえたプランには見えません。

自主財源比率が高い自治体であれば問題ないのかもしれませんが、歳入の多くの割合を地方交付税や国庫支出金に依存する福岡市において、こうした国の状況に対して「受け身」とも思える姿勢でよいのかが心配です。

大盤振る舞いの計画を出しておき、あとから国の補助金・交付税削減を理由に、それらが行えないことを市民に説明するというのでは、「自立分権型」の財政運営とは言えません。ぜひとも、この状況に対して、行政内部や市民との対話も踏まえつつ、戦略的な対応を図っていただきたいと思います。

3. 評価目標

今回示された評価目標の数値設定の仕方は、市民や職員の主観的回答が値となっているものが多く、気になります。主観的回答を目標値にすること自体が悪いとは思いませんが、もう少し客観的な数値を織り込む方法もあるように感じました。また重要施策の推進にかかる財源を3年間で750億円確保するという目標を掲げておられますが、基礎自治体として恒常的かつ地道に実施すべき事務・事業を決しておざなりにすることなく、その効率性や効果を考えた対応をご検討いただきたいと思います。

何か新しいことを行なえば、それを続けるための恒常的な支出も生じます。また、短期的に大盤振る舞いをすれば、市民の満足度は一時的に上がるかもしれませんが、将来において困ることになります。短期的な政策ではなく、中長期的なビジョンに基づいた政策をぜひ推進していただきたいと思ひますし、そのことが見えるような数値目標や評価基準について、市民に説明責任を果たすことと併せて、考えていただきたいと思ひます。

以上